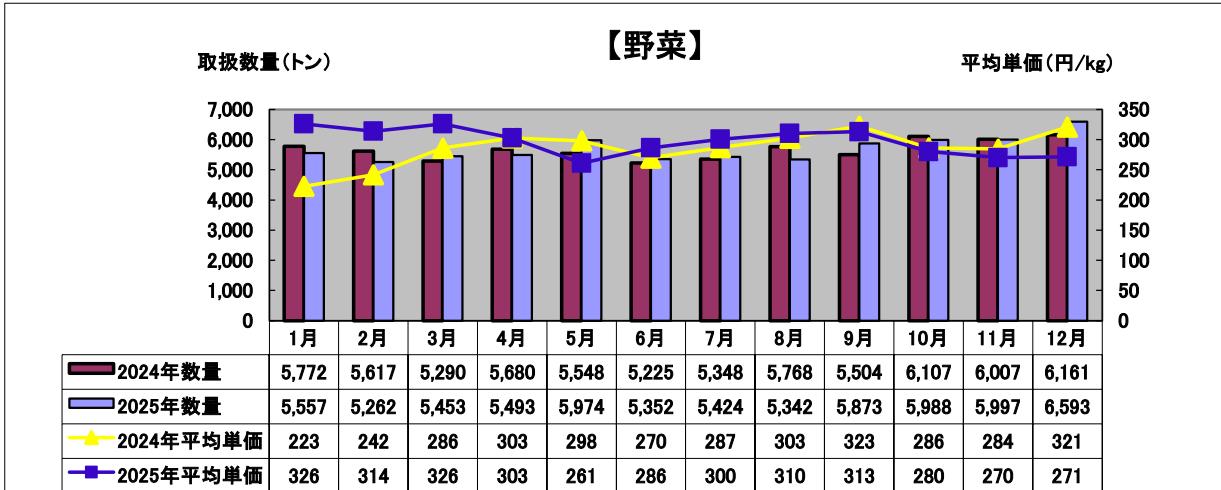
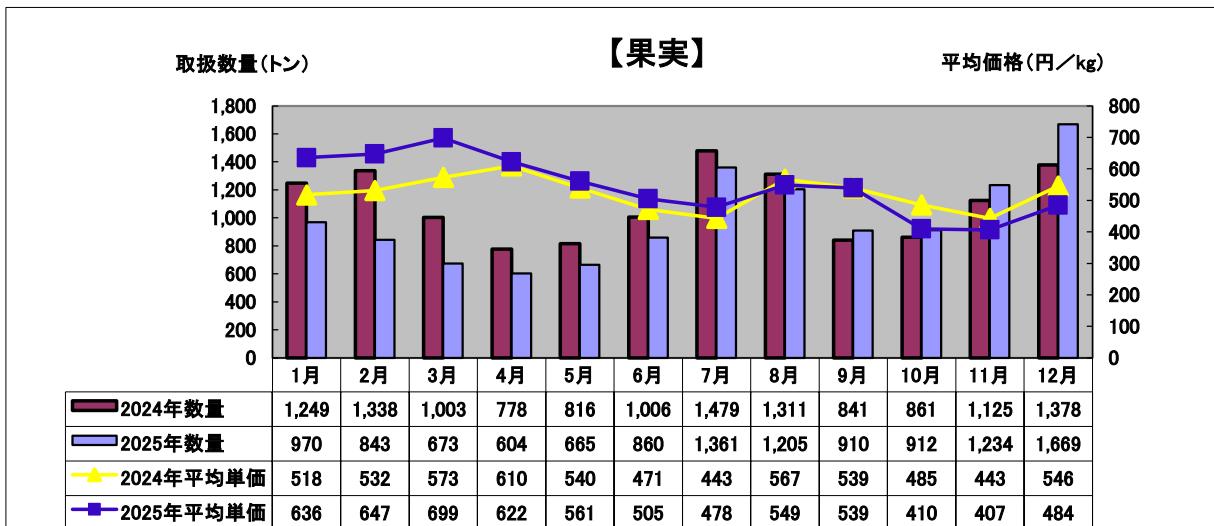


## 令和7年(2025年)12月 青果部種類別市況



一部の産地を除いて、比較的順調な生育・入荷となりました。前年の高単価の影響で積極的に販売するスーパー・量販店は少なく、小売店などでも販売価格が高く設定されていたため、小売り側の販売意欲が少なく卸売価格も伸び悩み、単価・金額ともに前年を下回る結果となりました。数量はやや増加、平均単価は安く推移しました。

前年比数量 107%、平均単価 85%で終了しました。



前年同月は構成比の高い温州みかんが西南暖地を中心に記録的な不作により、全体的に数量減・単価高であったが、今年度は数量・単価ともに一昨年並みの推移となりました。また、いちごが関東物を中心に前年より数量増となった影響もあり、果実全体としては数量増・単価安となりました。数量はかなり増加、平均単価は安く推移しました。

前年比数量 121%、平均単価 89%で終了しました。